

# 県内乾しいたけ生産者が抱える問題点と技術センターの取り組み

## 技術センターの取り組み

1 はじめに  
当センターでは、本県における今後の乾しいたけ生産振興を目的として、平成19年度に各振興局等の林業普及指導員と連携し、乾しいたけ生産者に聞き取り調査を行いました。その結果とセンターとしての取り組みについて報告します。

## 2 聞き取り調査の概要

調査期間  
平成19年6月5日～9月5日

調査者  
各振興局等林業普及指導員  
林業技術センター職員



図-1 地区別調査件数

表-1 調査対象者（乾しいたけ栽培農家105名）の概要

1 ほだ木保有本数	回答数	構成比%
10,000本未満	16	15
10,000本～29,999本	41	39
30,000本～59,999本	31	30
60,000本～99,999本	8	8
100,000本以上	5	5
不明	4	4
計	105	100

2 主な出荷先（重複回答有り）	回答数	構成比%
森林組合	57	43
農協	43	32
産直	13	10
日椎連、椎茸農協（現・葛巻高原食品）	8	6
その他	10	7
不明	3	2
計	134	100

3 原木入手法（重複回答有り）	回答数	構成比%
購入	32	29
立木購入・自力伐採	40	37
自家山林から調達	17	16
自身で伐採（立木購入か自山か不明）	14	13
購入・自家搬出（伐採が自力かどうか不明）	2	2
不明	4	4
計	109	100

4 生産施設（ハウス、人工ほだ場など）	回答数	構成比%
有り	44	42
無し	59	56
不明	2	2
計	105	100

## 3 調査結果の概要

(1) 生産者が考える生産拡大に向けた課題  
施設整備、特に、散水施設や

調査対象者  
乾しいたけ生産者（105名）  
主な調査内容  
乾しいたけ生産拡大の方策、新規参入、行政等との連携、自身の強み、弱み等

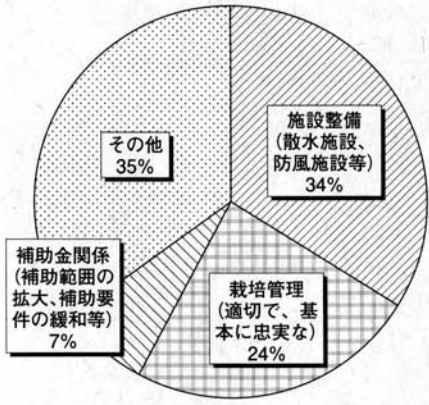


図-2 生産者が考える生産拡大の方策

(2) 生産者が行政及び普及指導に求めるもの  
防風施設の整備を挙げる回答が多かったのですが、施設整備としてハウスや人工ほだ場を挙げる回答はあまり見られませんでした。（図-2）  
ハウス、種駒、原木等の購入に対する補助要件の緩和や補助制度の維持・拡充を求める回答が最も多く見られました。（図-3）

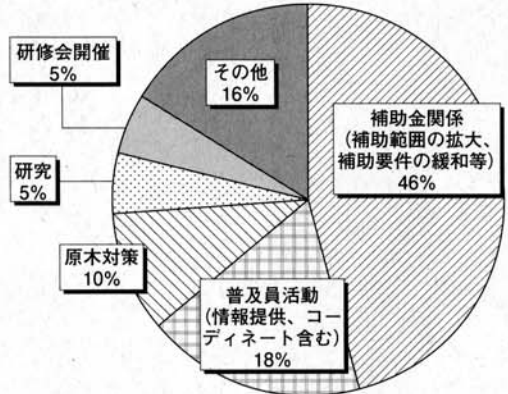


図-3 生産者が行政、普及に求めるもの

(3) 生産者が考える新規参入が難しい理由

生産者数が減少しているなかで、新規参入がなかなか進まない現状について、多くの生産者が経済面での課題を挙げていました。(図-4)

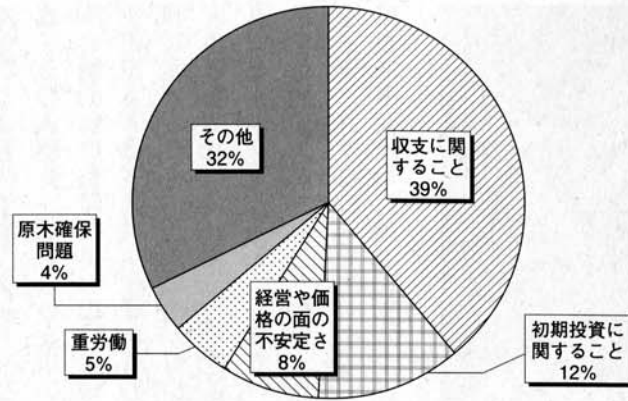


図-4 新規参入が難しい理由

(4) 生産者自身が考える「強み」と「弱み」

乾しいたけ生産者が、ほかの生産者と比べ有利であると考えている「強み」と、今後生産を続けていく上での障害(課題)と考えている「弱み」について集計した結果を、図-5及び図-

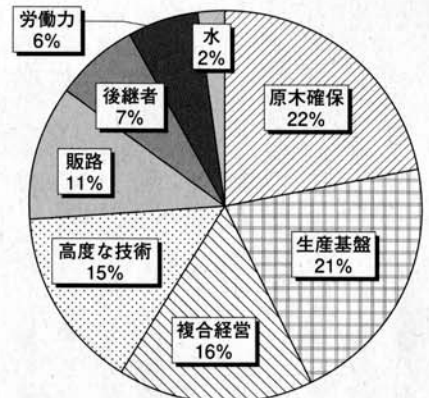


図-5 生産者が考える自身の強み

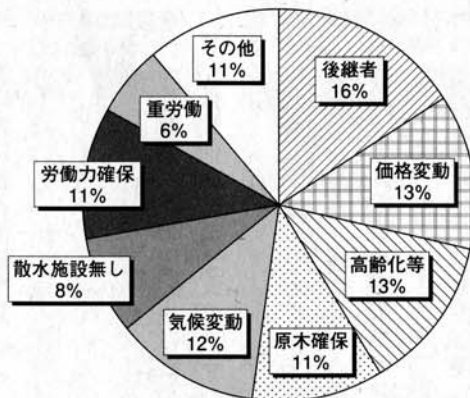


図-6 生産者が考える自身の弱み

6に示します。また、これらの回答内容のいくつかは特定の地域に多く見られたものであり、主な地域に特徴的に多く見られた回答内容を、



図-7 地域の特徴的な強み



図-8 地域の特徴的な弱み

4 林業技術センターの取り組み

(1) 水確保の問題や、経営的な理由で散水施設の導入ができません

図-7及び図-8に示します。

る生産者に対する効果的な散水法の指導、低コスト散水施設の技術開発と普及に取り組む必要があります。

この対策として、現在、技術センターでは、子実体発生期のための簡易自動散水装置の開発を行っているところです。

(2) 中堅的な生産者に対して、再度基本に忠実な栽培管理を行うよう、その必要性和効果について研修等を通じての周知徹底が必要であり、技術センターでは、しいたけ栽培技術研修会に講師協力等を行っています。

(3) ほだ化期間の短縮技術の開発及び技術指導に取り組む必要があり、現在、技術センターでは、県北地方の生産者の協力を受け、ほだ化期間短縮技術に関するデータ採取を行ったところです。今後、採取したデータの分析を進める予定です。

(4) 普及指導員の訪問による情報提供、地域をまとめる取り組みなど、日頃の業務を通じて対応可能な取り組みについて、積極的に推進していくこととしています。

岩手県林業技術センター

主任専門研究員 菅原誠司